

## 為替テレックス オンライン システム

為替は隔地者間の債権、債務を銀行の機能を利用して決済する方法で、為替交換は銀行の主要な業務である。今日では、オンライン化が進み、為替交換も迅速に行なわれるようになった。

現在、都市銀行、地方銀行では全国銀行データ通信システムによって他行為替の交換を行なっており、信用金庫は昭和51年10月から、全国信用金庫データ通信システムによって他行為替の交換が行なわれる予定である。

相互銀行は、現在、加入電信網（テレックス）を利用して他行為替の交換を行なっているが、近く全国銀行データ通信システム加盟が予定されている。

為替交換は取引集中店相互間で行なわれるが、各集中店では普通、自行内の本支店間で扱う自行替為の交換も行なっている。

集中店の為替交換システムは、オフラインとオンラインの二つの形態があるが、年々増加する為替電文の処理に対応するため、しだいにオンラインシステムに移行しつつある。

日立製作所は、ミニコンピュータのHITAC 10IIを使用した為替テレックスオンラインシステムを開発し、先ごろ北海道相互銀行に納入した。

本システムはHITAC 10IIを2台用い、1台は受信用、他を送信用とし、2台のCPU相互間をデータ交換制御装置で接続している。またテレックス回線とはNCU（網制御装置）を介して接続されている。

仕向店が発信した為替電文は、まず受信用HITAC 10IIに入り、ジャーナル取得後、送信用HITAC 10IIに送られる。

送信システムでは電文のチェック、フォーマット変換などを行ない、送信



電文あるいはエラー電文などとして磁気ディスクに出力する。ある条件になると、送信電文のある被仕向店に対してダイヤリングが行なわれ、回線が接続されるとその被仕向店あての電文がすべて送信される。本システムは次の特長を持っている。

- (1) 信頼性が高くバックアップ機能も充実している。
- (2) 処理能力及び回線効率の向上化が図られている。

- (3) 他の相互銀行にも適用できる。
- (4) 自行為替、他行為替の両者を取り扱う。
- (5) 自行内一斉電文の送信ができる。

北海道相互銀行では、本システムの導入によって、従来悩まされていた未送信電文が激減し、処理量の増大、省力化、正確化、迅速化などの大きな効果を挙げることができた。今後は、他の相互銀行でも、本システムの適用、応用が広まるものと考えられる。

